

CLMに関する取り組み

令和3年度の公立保育所に対する取り組み

- ①公立保育所に対しCLM導入に向けた全体研修 計4回 保育士176名が参加
- ②公立保育所 全10施設に対する基礎講座を1回ずつ実施
(CLMの書式の運用について)
- ③公立保育所 2施設で事例に合わせた実地研修を4回ずつ実施
(CLMの運用について実践形式での学び)

	場所	回数	年齢	関係者	経過	訪問月
1	A	4(8)	5	福祉(センター・保育幼稚園課)	引越	4~9
2	B	5	4	福祉(センター・保育幼稚園課)	継続	
3	C	6	5	福祉・教育・保健(センター)	就学	
4	D	3	3	福祉(センター)	研修	11~2
5	E	4	4	福祉(センター・保育幼稚園課)	研修	
6	F	4	4	福祉(センター・保育幼稚園課)	研修	

令和3年度 CLM 実践報告

※() 1日の訪問内容を2回に分けて行ったため。

CLM 支援に繋がった経緯

- ・研修事業の取り組みから実践に繋がった件数 3件(場所:A, B, D)
(内1件は保護者の理解に繋がり相談事業として対応)
- ・研修事業の取り組み件数 2件(場所:E, F)
- ・保護者からの相談で実践に繋がった件数 2件(場所:B, C)
(内1件は研修事業の取り組みから保護者理解に繋がった)

主な支援の内容

- ・それぞれの課題に合わせた環境調整による支援
(物の配置の見直し、生活の流れやルールの可視化、安心材料の可視化)

こどもの変化

- ・2週間の取り組みを2サイクルする頃には、当初の本人と保育者の困り感は減少していた。
- ・保育者から「こどもの笑顔が増えた」という感想が複数あった。

取り組みのまとめ

- ・継続的な訪問支援を行っていたが、コロナの再拡大に伴い訪問が困難になったことで、訪問による取り組みがペースダウンする。しかし、どの案件も2回目の訪問で児童の姿に変化が見られており、3、4回目の訪問時には「本児のことは最近気にならなくなった」「他の子の方が気になっている」という担任の実感(児童の成長と担任の困り感の減少)があり、感染拡大への配慮から積極的な訪問は行わなかった。

取り組み内容の参考

- ・落ち着きがなく、朝の会などでは奇声をあげるなどの行為が見られ集団性の課題から加配保育士がついていた。
- ・場面の観察から着席する場所の変更やスケジュールの提示など行う。
- ・2度目の訪問時には問題行動がなくなっている。
- ・不安感が強く、登園時から荒れた姿や不安定感の強い日には、室内にいられない様子。
- ・活動の明確化や先の見通しを持たせることで不安感に対応する支援や不安感を言葉で伝える支援を行う。
- ・少しずつ集団の活動を一緒にできる時間が増えていく。また、不安感を言葉で表現できるようになり、集団の中で安心して過ごせるようになる。
- ・本児の思いが集団の中で通らないことで、集団での活動（ゲームや片付け、朝の会など）で癇癪が多く見られていた。
- ・ルールを可視化して伝えたり、予定をあらかじめ伝えておいたりするなどの支援を行う。
- ・ルールなどを確認できるものがあることで癇癪が減り、集団活動に参加できるようになる。
- ・指示理解の困難さなどから取り組むべき内容に取り掛かれない、また、思いがうまく伝わらないことでコミュニケーションに困難さがある。
- ・コミュニケーションツールとして視覚支援により取り組みを行う。
- ・活動に対しての自発的な姿が増え、本児より積極的な関わりを示す姿が増える。
- ・特定の子に対する過剰な関わりが多くトラブルになっている。また、言葉でのやり取りの難しさがある。
- ・遊びの幅を広げていく取り組みを行う。また、ルーティンを明確化する取り組みを行う。
- ・着替えの準備などが最後だったことで集団から外れていたが、スムーズに行えるようになり、集団行動ができるようになる。特定の子に対する過剰な関わりがなくなる。
- ・暴言、暴力、室内からの飛び出しなどの姿から、他児との関わりが希薄になりコミュニケーションに難しさがある。また、集団行動の難しさがある。
- ・保育者との意図的な時間設定による安定した関わりの確保から、明確な全体ルールの可視化と再確認などの支援を行う。
- ・まだ集団になじむことは難しいものの、以前の関わりを拒否していた姿から、自ら関わりを求め、思い通りにならなくてもその場を離れず、自分もその場の一員であろうと葛藤する姿が見られるようになった。